

私は、英語力とコミュニケーション能力の向上を目的として研修に参加しました。ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院(SOAS)では、4つの英語による専門科目(International Relations/Environment & Development/Global Business Strategy/Introduction to Media)の中から自分の興味・関心に合ったコースを選択し受講します。研修を通じて、英語を学ぶだけでなく、英語を利用して、より発展的な学習が出来ることが魅力です。授業時間は週 18 時間あり、土日は休日となっていました。サマープログラムは日本出身の参加者が多く、私の選択した International Relations というサブジェクトコースでは9人中8人が日本人で1人は日本の大学に通っている韓国の方でした。授業は Lecture Preview(予習)→Lecture(講義)→Lecture Review(復習)→Lecture Discussion(講義についての話し合い)→Seminar(講義テーマに関する議論)という流れで行われ、2日間で1つのトピックを勉強します。予習と復習の時間では、講義担当の教授とは別に補助の教師とともに、講義で学んだ語句の意味の確認や問題となる事柄についてクラスメイトと話し合います。Lecture Discussionは講義の内容について理解を深める時間です。講義内容の補足説明や生徒からの質問に教授が答えます。2つのトピックを学習し終えた後には Case Study(事例研究)を行います。

最終日にはプレゼンがあり、講義のなかで自らが関心を持った事柄について3人1組で power point などをを用い問題点や解決策にふれ発表を行いました。また、3週間の研修のうち課外授業が2回あり、イギリス外務省と国際開発省(DFID)に見学に行き、業務内容について話を伺いました。国際開発省では、貧困問題や途上国援助の取り組みや課題などについて聞く機会がありました。講義は、「正義」、「国際法」、「人権」、「人道的介入」、「不平等と貧困」、「人間開発」、「国際社会と環境」の7つを主題として、国際的に起きている問題を倫理・道徳・責任と関連づけながら考える機会がありました。世界史や現代の世界情勢についての知識が必要とされることもあり、専門的な内容のため、十分に聞き取り、理解することがとても難しく、初めは理解が追いつきませんでした。徐々に英語に慣れて講義内容が分かるようになり、質問も積極的に出来るようになりました。講義を通して同じコースの生徒や教授の意見、様々な考え方にふれることが出来ました。さらに個人だけでなく、国や政府がどのような考えをもち行動しているのかについてなど、海外からの視点を知り、見識を広めることができました。疑問に思ったこと、意見や感想はためらわずに積極的に発言することで、より理解を深めることができました。

キャンパスはロンドンの中心地にあり、すぐ近くに大英博物館もあり、休日はオックスフォード、グリニッジ、ロンドンの様々な観光地をめぐるしました。研修期間中は最寄駅から徒歩5分ほどに位置している大学の学生寮に滞在しました。全て個室で1フロアに6部屋ありますが、キッチン共同で使いました。外食も楽しみましたが、近くのスーパーで食材を買い自炊するなどして、他コースの仲間と交流を深めることも出来ました。

研修全体を通してみると、外国人よりも日本人との関わりが多く、想像していたよりも英語を話す機会は多くはなかったようにも思えます。しかしながら、このプログラムに参加している人との出会いは、とても貴重なものです。他のコースを選択している人との交流の場もあるので積極的に話しかけることをおすすめします。伝えたいことを言葉にすることができず、もどかしい思いもしましたが、勉強面とともにコミュニケーション面においても、語学力以上に積極性が重要であると学びました。そして、自分の価値観や将来のビジョンを見直すかけがえのない経験になりました。今回のプログラムに参加させていただきとても感謝しています。